

第4号議案

北海道風力実証試験にかかるマージンの設定に伴う 連系線マージンの変更について

(案)

北海道本州間連系設備（双方向）および東北東京間連系線（双方向）について、10月28日分^{*1}から、北海道風力実証試験にかかるマージン（以下、「風力実証マージン」とする）を新たに設定することから、第99回理事会（第7号議案）で決議した年間・長期・実需給断面における予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージンの値及び確保すべき理由を、別紙1のとおり、一部変更し、別紙2により本機関ウェブサイトにて公表する。

公表日：2017年10月25日

変更日：

- ・2017年度分（翌々日～翌日断面）：前々日～前日に設定（10月28日以降分^{*1}）
- ・2018年度分（年間計画）：2018年3月に実施する年間計画策定時に設定^{*2、3}
- ・2019～2021年度分（長期計画）：間接オークションの導入時に設定

※1 風力実証試験機の試運転の日程変更等により変更となる場合がある

※2 広域機関システム都合上、次回年間計画策定時に設定を反映

※3 調整用策定時含む。なお、2018年4月分は月間計画策定時

（参考）風力実証マージン設定に至る経緯

風力実証マージンについては、第9回系統ワーキンググループにおいて当機関に対し、北海道風力実証試験が実施可能となるようルール整備の検討要請があったことを受けて検討したものである。

風力実証マージンの具体的な設定方法について、当機関が設置する調整力及び需給バランス評価等に関する委員会並びにマージン検討会における検討がまとまったこと、および北海道風力実証試験が10月28日^{*1}から開始する見込みとなったことから、風力実証マージンを設定する。

以上

【添付資料】

別紙1：予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージンの値及び確保理由の変更について

別紙2：ウェブサイト公表文

予備力・調整力及び潮流抑制のための マージンの値及び確保理由の変更について

- 2018年度（年間計画）
- 2019～2021年度（長期計画）
- 実需給断面

2017年10月25日

空 白

1 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2018年度）

【変更前】

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

(単位：MW)

連系線	方向	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	210	230	250	250	240	270	280	280	500	500	440	440
	東北⇒北海道	490	500	510	510	510	520	530	530	510	530	530	530
	方向	7月				8月				9月			
	北海道⇒東北	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
	東北⇒北海道	500	530	520	530	500	530	510	530	500	530	520	530
	方向	10月				11月				12月			
	北海道⇒東北	220	260	250	260	190	230	230	230	170	180	180	170
	東北⇒北海道	500	520	510	520	480	500	500	500	470	480	480	470
	方向	1月				2月				3月			
	北海道⇒東北	180	180	200	170	180	180	180	160	200	200	240	230
	東北⇒北海道	440	440	490	480	460	450	480	470	490	490	510	500

【変更後】 下線部：変更箇所

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

(単位：MW)

連系線	方向	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	218	238	258	258	248	278	288	288	508	508	448	448
	東北⇒北海道	498	508	518	518	518	528	538	538	518	538	538	538
	方向	7月				8月				9月			
	北海道⇒東北	508	508	508	508	509	509	509	509	509	509	509	509
	東北⇒北海道	508	538	528	538	509	539	519	539	509	539	529	539
	方向	10月				11月				12月			
	北海道⇒東北	233	273	263	273	203	243	243	243	188	198	198	188
	東北⇒北海道	513	533	523	533	493	513	513	513	488	498	498	488
	方向	1月				2月				3月			
	北海道⇒東北	198	198	218	188	198	198	198	178	218	218	258	248
	東北⇒北海道	458	458	508	498	478	468	498	488	508	508	528	518

(注)・需給状況変化に伴う供給計画変更等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・設定値の広域機関システムへの反映は、次回年間計画策定時に実施(調整用策定時含む)。なお、2018年4月は月間計画策定時)

1 予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（2018年度）

【変更前】

<北本作業時等>

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

連系線	方向	5月(運用容量300MW時)				10月(運用容量300MW時)				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(5月)	(10月)
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	300	300	300	300	300	300	300	300	平P 14,15,17,18日 平N 14~18日 休P 12,13日 休N 12,13日	平P 17,19,22~24日 平N 12,17~19,22~24日 休P 20日 休N 20~21日
	東北⇒北海道	130	130	90	90	140	140	90	90		
	方向	12月(運用容量300MW時)				—				備考	
	北海道⇒東北	—	—	300	—	—	—	—	—	(12月) 休P 16日	
	東北⇒北海道	—	—	160	—	—	—	—			

【変更後】 下線部：変更箇所

<北本作業時等>

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯>

連系線	方向	5月(運用容量300MW時)				10月(運用容量300MW時)				備考	
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	(5月)	(10月)
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	300	300	300	300	300	300	300	300	平P 14,15,17,18日 平N 14~18日 休P 12,13日 休N 12,13日	平P 17,19,22~24日 平N 12,17~19,22~24日 休P 20日 休N 20~21日
	東北⇒北海道	138	138	98	98	153	153	103	103		
	方向	12月(運用容量300MW時)				—				備考	
	北海道⇒東北	—	—	300	—	—	—	—	—	(12月) 休P 16日	
	東北⇒北海道	—	—	178	—	—	—	—			

(注)・需給状況変化に伴う供給計画変更等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・設定値の広域機関システムへの反映は、次回年間計画策定時に実施(調整用策定時含む)

【変更前】

（単位：MW）

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北東京間 連系線	東北⇒東京	570	500	610	800	800	680	530	610	670	710	710	650
	東京⇒東北	320	290	330	370	380	350	310	350	380	390	390	380

（単位：MW）

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北東京間 連系線	東北⇒東京	450	450	450	680	690	580	450	460	610	640	640	560
	東京⇒東北	300	270	290	320	340	320	290	320	360	370	360	330



【変更後】下線部：変更箇所

（単位：MW）

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北東京間 連系線	東北⇒東京	<u>578</u>	<u>508</u>	<u>618</u>	<u>808</u>	<u>809</u>	<u>689</u>	<u>543</u>	<u>623</u>	<u>688</u>	<u>728</u>	<u>728</u>	<u>668</u>
	東京⇒東北	<u>328</u>	<u>298</u>	<u>338</u>	<u>378</u>	<u>389</u>	<u>359</u>	<u>323</u>	<u>363</u>	<u>398</u>	<u>408</u>	<u>408</u>	<u>398</u>

（単位：MW）

連系線	方向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東北東京間 連系線	東北⇒東京	<u>458</u>	<u>458</u>	<u>458</u>	<u>688</u>	<u>699</u>	<u>589</u>	<u>463</u>	<u>473</u>	<u>628</u>	<u>658</u>	<u>658</u>	<u>578</u>
	東京⇒東北	<u>308</u>	<u>278</u>	<u>298</u>	<u>328</u>	<u>349</u>	<u>329</u>	<u>303</u>	<u>333</u>	<u>378</u>	<u>388</u>	<u>378</u>	<u>348</u>

（注）・需給状況変化に伴う供給計画変更等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・設定値の広域機関システムへの反映は、次回年間計画策定時に実施（調整用策定時含む。なお、2018年4月は月間計画策定時）



Organization for Cross-regional Coordination of
Transmission Operators, JAPAN

【変更前】

（単位：MW）

連系線	方向	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	500	500	500	500	500	500	500	500
	東北⇒北海道	530	550	550	550	550	550	550	550
東北東京間 連系線	東北⇒東京	800	800	810	810	810	810	820	820
	東京⇒東北	380	390	390	390	400	400	400	400



【変更後】下線部：変更箇所

（単位：MW）

連系線	方向	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
北海道本州間 連系設備	北海道⇒東北	<u>528</u>	<u>540</u>	<u>540</u>	500	500	500	500	500
	東北⇒北海道	<u>558</u>	<u>590</u>	<u>590</u>	550	550	550	550	550
東北東京間 連系線	東北⇒東京	<u>828</u>	<u>840</u>	<u>850</u>	810	810	810	820	820
	東京⇒東北	<u>408</u>	<u>430</u>	<u>430</u>	390	400	400	400	400

（注）・需給状況変化に伴う供給計画変更等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

・設定値の広域機関システムへの反映は、間接オークションの導入時に実施。

・2022年度以降は、北海道風力実証試験期間が未確定のことから、別途設定する。

・2019年度分から増強が予定されている北本（+30万kW：2019年3月運開予定）の増加分の運用容量については、電力市場取引環境整備のマージンとして取扱うため、上表の値には含まない。



電力広域的運営推進機関
Organization for Cross-regional Coordination of
Transmission Operators, JAPAN

下線部：追加・変更箇所

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
北海道本州間連系設備	北海道⇒東北	110～500MW ^{※1}	北海道本州間連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数上昇を一定値以内に抑制するため。具体的には、北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値とする。 <small>（調整力及び需給バランス評価等に関する委員会にてマーシン設定以外の周波数上昇対策について継続検討中）</small> <u>また、上記に加えて、北海道風力実証試験にかかるマーシンとして、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値を加える。</u>
	東北⇒北海道	410～550MW ^{※1}	北海道エリアの電源のうち、出力が最大である単一の電源の最大出力が故障等により失われた場合にも、北海道エリアの周波数低下を一定値以内に抑制するため。 但し、北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数低下が一定値以内となる潮流の値を差し引いた値の方が大きい場合は、その値とする。 <u>また、上記に加えて、北海道風力実証試験にかかるマーシンとして、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値を加える。</u>

※1 北海道風力実証試験にかかるマーシン加算後（2017年度 最大8MW）も、設定値範囲の変更なし。
（記載の最小値、最大値が、実証試験前の4月～9月の値だったため）

（注）・マーシンの値は2017年度における値。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり。



下線部：追加・変更箇所

連系線	方向	マーシンの値	マーシンを確保する理由
東北東京間連系線	東北⇒東京	① 0～790MW ^{※1} ② 330～790MW ^{※1}	（※2）の値（①）とする。但し、台風や暴風雪等の予見可能なリスクが高まった場合は、電力システムを安定に維持するため、東京エリア内で想定する送電線の故障により複数の電源が脱落した場合に東北エリアから東京エリアに流れる最大の潮流の値と（※2）の値のうち大きい値（②）とする。 <u>また、上記に加えて、北海道風力実証試験にかかるマーシンとして、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値を加える。</u>
	東京⇒東北	【変更前】 0～390MW 【変更後】 0～398MW	（※2） <u>また、上記に加えて、北海道風力実証試験にかかるマーシンとして、調整力のエリア外調達のため。具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値を加える。</u>

※1 北海道風力実証試験にかかるマーシン加算後（2017年度 最大8MW）も、設定値範囲の変更なし。
（記載の最小値、最大値が、実証試験前の4月～9月の値だったため）

※2 電気の供給先となる供給区域に必要な運転予備力 又は 供給区域に電気を供給予定の供給区域の電源のうち出力が最大である単一の電源の最大出力（但し、当該電源が発電する電気を継続的に供給区域外へ供給している場合は当該供給量を控除した値とする）に対して不足する電力の値をマーシンとして設定。

（注）・マーシンの値は2017年度における値。

・想定需要の見直し等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マーシンの値は今後変更となる可能性あり。



下線部：変更箇所

連系線	方向	マージンを確保する理由
		< >：第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会で再整理した区分
北海道本州間連系設備	北海道⇒東北	東京エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）の一部を確保するため。但し、北海道エリアの周波数の上昇及び低下を一定値以内に抑えることができる値を上限とする。具体的には、次のうち大きい値とする。 ①北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数の上昇が一定値以内となる最大の潮流の値を差し引いた値 <C1> <small>(注)</small> <small>(注) 調整力及び需給バランス評価等に関する委員会でマージン設定以外の周波数上昇対策について継続検討中</small> ②東京エリアの系統容量の3%相当の半量のうち、東京エリアが需給ひっ迫した場合において北海道エリアから供給が期待できる値 <A1> また、上記に加えて、北海道風力実証試験にかかるマージンとして、調整力のエリア外調達のため、具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値を加える。<A0>
	東北⇒北海道	北海道エリアの電源のうち、出力が最大である単一の電源の最大出力が故障等により失われた場合にも、北海道エリアの周波数低下を一定値以内に抑制するため。 <B1> 但し、北海道本州間連系設備の運用容量から、当該連系設備が緊急停止した場合に北海道エリアの周波数低下が一定値以内となる潮流の値を差し引いた値の方が大きい場合は、その値とする。 <C1> また、上記に加えて、北海道風力実証試験にかかるマージンとして、調整力のエリア外調達のため、具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値を加える。<A0>
東北東京間連系線	東北⇒東京	東京エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）の半量を確保するため <A1> また、上記に加えて、北海道風力実証試験にかかるマージンとして、調整力のエリア外調達のため、具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値を加える。<A0>
	東京⇒東北	東北エリアの融通期待量（系統容量の3%相当）を確保するため <A1> また、上記に加えて、北海道風力実証試験にかかるマージンとして、調整力のエリア外調達のため、具体的には、北海道風力実証試験のために連系する風力発電の予測誤差に対応できる値を加える。<A0>



参考) 年間：2018年度上期_予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン内訳〔北本連系設備〕

<平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯> 下線部：追記・変更箇所

(単位：MW)

方向	区分	4月				5月				6月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	210	230	250	250	240	270	280	280	240	280	280	290
	A1	150	150	110	110	130	130	90	90	500	500	440	440
	A0	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
		218	238	258	258	248	278	288	288	508	508	448	448
東北⇒北海道	B1	490	500	510	510	510	520	530	530	510	530	530	530
	C1	410	420	430	430	430	440	450	450	430	450	450	450
	A0	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
		498	508	518	518	518	528	538	538	518	538	538	538
方向	区分	7月				8月				9月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	230	280	260	280	220	280	250	280	220	280	270	280
	A1	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
	A0	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9
		508	508	508	508	509	509	509	509	509	509	509	509
東北⇒北海道	B1	500	530	520	530	500	530	510	530	500	530	520	530
	C1	420	450	440	450	420	450	430	450	420	450	440	450
	A0	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9
		508	538	528	538	509	539	519	539	509	539	529	539

(説明) ・区分についてはシート14、15を参照。
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、A0の値を加えた値をマージンの値とする。

(注) ・需給状況変化に伴う供給計画変更等や北海道風力実証試験発電機の運用月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・設定値の広域機関システムへの反映は、次回年間計画策定時に実施(調整用策定時含む。なお、2018年4月は月間計画策定時)



＜平：平日、休：休日、P：昼間帯、N：夜間帯＞ 下線部：追記・変更箇所

(単位：MW)

方向	区分	10月				11月				12月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	220	260	250	260	190	230	230	230	160	180	180	170
	A1	140	140	90	90	160	160	120	120	170	170	160	160
	A0	13	13	13	13	13	13	13	13	18	18	18	18
		233	273	263	273	203	243	243	243	188	198	198	188
東北⇒北海道	B1	500	520	510	520	480	500	500	500	470	480	480	470
	C1	420	440	430	440	400	420	420	420	390	400	400	390
	A0	13	13	13	13	13	13	13	13	18	18	18	18
		513	533	523	533	493	513	513	513	488	498	498	488
方向	区分	1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	100	110	200	170	140	130	180	150	200	200	240	230
	A1	180	180	160	160	180	180	160	160	170	170	140	140
	A0	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
		198	198	218	188	198	198	198	178	218	218	258	248
東北⇒北海道	B1	440	440	490	480	460	450	480	470	490	490	510	500
	C1	360	360	410	400	380	370	400	390	410	410	430	420
	A0	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
		458	458	508	498	478	468	498	488	508	508	528	518

(説明) ・区分についてはシート14、15を参照。
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、A0の値を加えた値をマージンの値とする。

(注) ・需給状況変化に伴う供給計画変更等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・設定値の広域機関システムへの反映は、次回年間計画策定時に実施(調整用策定時含む)。なお、2018年4月は月間計画策定時)



下線部：追記・変更箇所

(単位：MW)

方向	区分	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
北海道⇒東北	C1	290	290	290	290	290	290	290	290
	A1	500	500	500	500	500	500	500	500
	A0	28	40	40	-	-	-	-	-
		528	540	540	500	500	500	500	500
東北⇒北海道	B1	530	550	550	550	550	550	550	550
	C1	450	450	450	450	450	450	450	450
	A0	28	40	40	-	-	-	-	-
		558	590	590	550	550	550	550	550

(説明) ・区分についてはシート14、15を参照。
 ・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、A0の値を加えた値をマージンの値とする。

(注) ・需給状況変化に伴う供給計画変更等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。
 ・設定値の広域機関システムへの反映は、間接オークションの導入時に実施。

<平: 平日、休: 休日、P: 昼間帯、N: 夜間帯> 下線部: 追記・変更箇所

(単位: MW)

方向	区分	10月				11月				12月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	220	260	260	260	190	230	230	230	160	180	180	170
	A1	130	130	90	90	160	160	120	120	170	170	150	150
	A0	6	6	6	6	8	8	8	8	8	8	8	8
		226	266	266	266	198	238	238	238	178	188	188	178
東北⇒北海道	B1	500	520	520	520	490	500	500	500	470	480	480	470
	C1	420	440	440	440	410	420	420	420	390	400	400	390
	A0	6	6	6	6	8	8	8	8	8	8	8	8
		506	526	526	526	498	508	508	508	478	488	488	478
方向	区分	1月				2月				3月			
		平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N	平P	平N	休P	休N
北海道⇒東北	C1	110	110	210	180	140	130	190	150	200	200	240	230
	A1	180	180	160	160	180	180	160	160	170	170	140	140
	A0	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
		188	188	218	188	188	188	198	168	208	208	248	238
東北⇒北海道	B1	440	440	490	480	460	460	480	470	490	490	510	500
	C1	360	360	410	400	380	380	400	390	410	410	430	420
	A0	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
		448	448	498	488	468	468	488	478	498	498	518	508

(説明) ・区分についてはシート14、15を参照。
・北海道⇒東北向きについては区分C1とA1のうち大きい値、東北⇒北海道向きについては区分B1とC1のうち大きい値に、A0の値を加えた値をマージンの値とする。



(注)・需給状況変化に伴う供給計画変更等や北海道風力実証試験発電機の運開月・連系量の変更等により、マージンの値は今後変更となる可能性あり。

参考) マージンの分類と区分について

【予備力・調整力に関連したマージン】		内は当該区分に該当する現状のマージン		
マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべきリスクへの対応			稀頻度リスクへの対応
	(参考) エリアが確保する調整力分※1	左記のうち、 エリア外調達分	エリア外 期待分	エリア外 期待分
「需給バランスに対応したマージン」 需給バランスの確保を目的として、連系線を介して他エリアから電気を受給するために設定するマージン	電源 I	A0	A1 旧① 旧②	A2 旧⑤
		(該当なし)	・最大電源ユニット相当 ・系統容量3%相当※2	・系統容量3%相当※3
「周波数制御に対応したマージン」 電力系統の異常時に電力系統の周波数を安定に保つために設定するマージン ※周波数制御(電源脱落対応を除く)のためにマージンを設定する場合は、「異常時」の表現の見直しが必要。	電源 I-a	B0	B1 旧③	B2 旧③
		(該当なし)	・東京中部間連系設備 (EPPS: 逆方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC: 逆方向)	・東京中部間連系設備 (EPPS: 順方向) ・北海道本州間連系設備 (緊急時AFC: 順方向)

※1: 表中には記載を省略しているが、電源Ⅱの余力も含む。
※2: 従来区分①の系統容量3%相当マージンについては、長期計画断面では区分Dのマージンのほうが大きいため必要性を検討する必要性が無くなっている。一方、現在、前々日時点でエリア予備力不足時にはマージンを確保していることから、ここに記載している。
※3: ESCJの整理において、系統容量3%相当マージンに従来区分⑤(稀頻度リスク対応)に該当する観点が含まれることから記載

※北海道風力実証試験にかかるマージンは「A0」に該当

出典: 第11回調整力及び需給バランス評価に関する委員会 資料2

【連系線潮流抑制による安定維持のためのマージン】

マージンの目的 マージンの分類	通常考慮すべき リスクへの対応	稀頻度 リスクへの対応
「連系線潮流抑制のためのマージン」 電力系統の異常時に電力系統を安定に保つことを目的として、当該連系線の潮流を予め抑制するために設定するマージン	C1 旧④	C2 旧④
	・北海道本州間連系設備 (潮流抑制)	・東北東京間連系線 (潮流抑制)

【電力市場取引環境整備のマージン】

マージンの目的 マージンの分類	電力市場取引 環境整備
「電力市場取引環境整備のマージン」 先着優先による連系線利用の登録によって競争上の不公平性が発生することを防止するために設定するマージン	D
	(該当なし)

出典：第11回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2

北海道風力実証試験にかかるマージンの設定について

北海道本州間連系設備（双方向）および東北東京間連系線（双方向）について、10月28日以降分^{※1}から、北海道風力実証試験にかかるマージン（以下、「風力実証マージン」とする）を新たに設定いたします。

このため、2017年3月1日に公表した「平成29～38年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン（年間計画・長期計画）及び実需給断面における連系線マージンの値及び確保理由について」のうち北海道本州間連系設備（双方向）、東北東京間連系線（双方向）のマージンの値及び確保理由を別紙のとおり変更いたします。

【変更予定日】

- ・2017年度分（翌々日～翌日断面）：前々日～前日に設定（10月28日以降分^{※1}）
- ・2018年度分（年間計画）：2018年3月に実施する年間計画策定時に設定^{※2、3}
- ・2019～2021年度分（長期計画）：間接オークションの導入時に設定

※1 風力実証試験機の試運転の日程変更等により変更となる場合があります

※2 広域機関システム都合上、次回年間計画策定時に設定を反映いたします

※3 調整用策定時を含みます。なお、2018年4月分は月間計画策定時に設定を反映いたします

別紙：予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージンの値及び確保理由の変更について

参考資料：北海道風力実証試験にかかるマージンの設定について（概要）

関連リンク：マージン検討会の資料

以上